

藤中 拓馬さん（山口県岩国市出身）
2016年度3次隊 青年海外協力隊
派遣国：インドネシア 職種：柔道
2017年10月15日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

学生らに柔道手ほどき

「スラマ・パギ（おはようございます）」。目上の方に握手を求め、握ったまま自分の額に手を当てる。握手後は自分の両手を自分の胸に当てる。バリ島やタレントのデビ夫人で有名なインドネシア。首都ジャカルタ南部のラグナン体育中学高等学校で働く私の1日は、午前5時半からこのあいさつを生徒、同僚と交わすことで始まる。



柔道の練習風景。生徒たちは熱心に取り組んでいる

私はこの学校でインドネシア人コーチ3人とトレーニングコーチの計4人、中高の全生徒13人に週6日、柔道を指導している。また週1度はジャカルタ選抜チームの合同練習に参加。インドネシア人と汗を流す。

9月にあった全国大会では優勝者5人と好成績を残した。赴任してから全く勝てなかった選手に「先生の技術で優勝できました。ありがとう」と言われた時がここ半年で一番うれしかった。ただ技術よりも、力の使い方を教える事が最も難しいと感じている。

赤道に近い国なので一年中暑く、雨期と乾期しかない。首都ジャカルタには多くの外国の企業があるため、ビジネス街は広島を中心街のように活気にあふれているが、裏路地に行けば風景は一変。貧困層の人たちが生活をしている。しかし現地の人は笑うことが大好きで、年下の面倒見がとて面白い。そんな彼らに私はいつも助けられている。

私のここでの2年間の目標は、教え子に日本の柔道技術をたくさん伝えること。そして、社会に貢献できる選手を多く輩出していくことだ。